

## 「公務における人材育成・研修に関する研究会」第3回議事録

1 日時 平成27年6月11日（木） 14:20～16:20

2 場所 人事院公務員研修所

3 出席者（座長以外は五十音順）

原田久 立教大学法学部教授、出雲明子 東海大学政治経済学部准教授、  
鵜養幸雄 立命館大学公務研究科教授、藤田由紀子 学習院大学法学部教授

4 議事次第

- (1) 開会
- (2) 初任行政研修「行政政策事例研究」全体討議の視察
- (3) 意見交換
- (4) 閉会

5 意見交換

（初任行政研修の概況説明、「行政政策事例研究」全体討議の視察の後、原田座長の進行により以下の意見交換が行われた。）

- 採用府省毎の組織の色に染まってしまう前に、過去の重要な行政事例を題材に、その後の中立的な検証や批判的な視点・反省も踏まえて、様々な府省の研修員が相互に検討を加え、プレゼンテーションや質問を行っていく手法は大変良いと感じた。
- 学生時代には、行政に対して批判的な視点で物事を捉えていたかもしれない研修員が、本研修を通じて、当時の行政が取り組んだ苦労や視点を理解し、行政官としての立場から発表・意見交換していたことが印象的だった。
- 採用府省とは異なる課題であっても、過去の行政政策事例について研究することや、当時の政策決定者から、御自身の率直な思いや経験を踏まえた講評をいただく手法は、研修員にとって大変意義深いものであると感じた。
- 行政官と話をするとすぐにどこの府省の人か分かるとも言われるが、この研修では、各研修員が府省を背負わず自由に発言しており、所属府省がどこかを研修員間でも認識せずに議論が展開されていることが非常に良い点だと思う。この点はまさにこの府

省を超えた初任行政研修が目指している趣旨に合致しており、研修の目的が実現されているように感じた。

- 行政運営という面では、政治との関係という視点がとかくクローズアップされがちだが、行政事例に関する演習を経て、国民との関係ということを考えさせる仕掛けが、これからの行政を考える上でも良いことだと思った。
  
- これからの研修では、各府省のセクショナリズム、政治の優位性や市民への応答といった行政運営の一場面だけを捉えるのではなく、政治、国民、各府省といった行政運営に関わる多角的な関係の中から、行政官の自律的な責任のようなものを作り出していくことが求められている。様々な対抗関係の中で、最終的には行政官が自らもがきながらこういう政策を打ち出すというような、そうした責任感を涵養する研修が今後ますます重要になるのではないか。